

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	2021 年度
氏名	土井 雅恵	指導教員 (主査)	安齋 ひとみ

論文題目	急性期病棟看護師における認知症高齢者への看護の実践に関連する要因
------	---

本文概要	
【目的】	急性期病棟看護師の認知症高齢者への看護の実践に関連する要因を明らかにする。急性期病棟看護師の課題が明らかになり対応策を考えることに繋がる。
【方法】	関東1都6県の二次救急病院865ヶ所に依頼し、急性期病棟に勤務する看護師2,486人を対象に無記名による自記式質問紙調査を実施した。鈴木ら(2016)が開発した「急性期病院の認知障害高齢者のための看護実践自己評価尺度」(以下、「看護実践尺度」とする。)を従属変数とするステップワイズによる変数選択を行い重回帰分析した。
【結果】	関東地区1都6県の二次救急病院の急性期病棟に勤務する看護師963人を対象とした分析の結果、回答者は1,047人(回収率42.1%)、有効回答963人(有効回答率92.0%)であった。急性期病棟に勤務する看護師の認知症高齢者の看護経験や受け持ちは、6割以上であった。看護実践尺度19項目の総合得点の平均値は86.46(SD±11.46)であった。本研究の急性期病棟の看護師の方が、やや合計得点の平均値が高かった。平均値をカットオフ値とする平均値以上の群(以下、「看護実践の高い群」とする。)と、平均値未満の群(以下、「看護実践の低い群」とする。)をクロス集計で分析した結果、看護実践の高い群と低い群で有意差のみられた項目は、混合病棟(p=0.003)、認知症高齢者の実践に必要な研修の受講の有無(p=0.001)、院内で尊厳に関する研修の受講の有無(p=0.000)などがあつた。看護実践尺度を従属変数とする重回帰分析の結果、調査内容以外の要因が関連しているとされた。
【考察】	急性期病棟の看護師は認知症高齢者や軽度認知障害のある高齢者を担当しており、院内研修を受講していたが、さらに専門看護師・認知症看護認定看護師による事例検討の必要性を感じていた。さらなる認知症高齢者への看護を実践するためには、ケアに関わる時間が必要とされており、急性期病棟の看護体制や多職種との連携が重要である。 そのためには、看護師が継続的に関わることや、看護ケア以外の時間がとれる看護配置や環境づくりが必要であると示唆された。
【キーワード】	二次救急病院、急性期病棟、認知症高齢者、看護師